



# ゆもとと通信

大田区 地元の『ゆもと』

大田区議会議員(3期目)  
大田区へ政策提言

第9号

平成30年3月発行

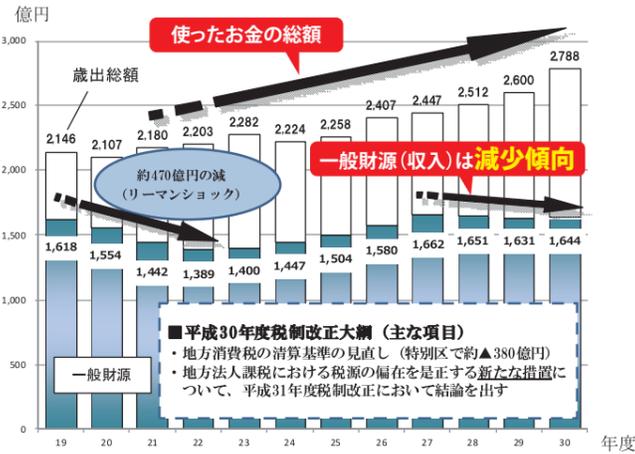
## 区民のお財布はどうなってる?

### 大田区の予算はどのくらい?

平成30年度の一般会計で2,787億7千万円余、前年度比約169億円、6.5%の増となりました。

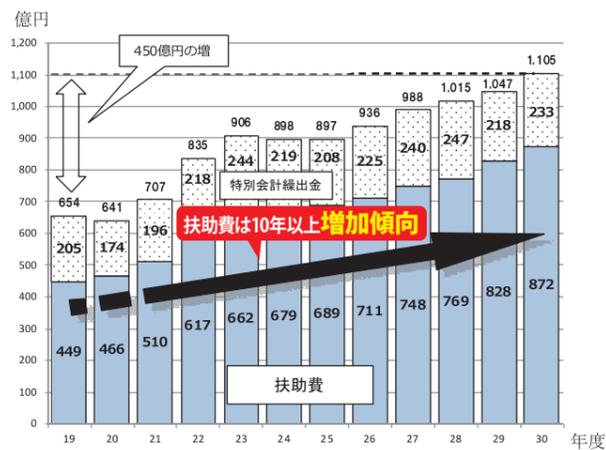
### それって多いの or 少ないの?

大田区の予算規模は平成24年から拡大を続けています。併せて扶助費と特別会計繰出し金も増加を続けております。



#### ▲歳出規模と一般財源の推移

歳出総額推移(=使ったお金の全て)の増加に対し一般財源(=いかなる経費についても使用できる収入)は平成27年から微減(平成30年は税制改正の影響による)していることが解ります。



#### ▲扶助費と特別会計繰出し金の推移

扶助費(=待機児解消をはじめとした少子高齢化社会対応の経費)は平成19年度から上昇を続けています。

※大田区平成30年度予算案プレスリリース参照

財政規模が拡大している要因として少子高齢化社会対応に支出が拡大していることが上げられます。一方でいかなる経費についても使用できる収入である一般財源は頭打ちの状況にあるのが大田区の現状です。

## では、大田区は節約の努力をしているのか?

人件費は職員数を計画的に減らし約3億円の削減をおこなっています。また区の借金ともいえる公債費は特別区債の発行抑制等により約9億円の減となりました。これは内部努力として大田区の取組を評価するところではあります。2,787億円の財政をどの様に運営していくかという議論をする際に、12億円の節約ができましたから今後の区財政は安泰ですとはなかなか言い切れないのが現状です。

**2,787億円に対して  
12億円の節約**

1万円に置き換えると

1万円に対して  
**43円の節約**

つまり**1万円**の使い方を議論する際に**43円**は節約できましたというスケール感になります

## これからの大田区がどう変わっていくかがとても重要

今後の大田区は高齢化が進み、生産年齢人口は減少します。

社会を支える人(=生産年齢人口) ▶ **減少予測**

支えられる人(=高齢人口) ▶ **増加予測**

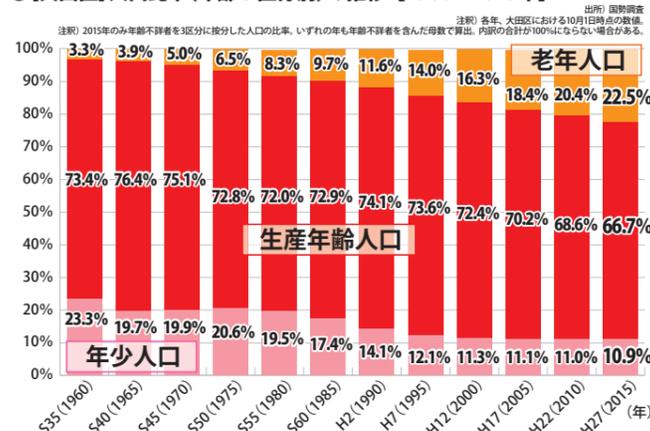
支える人が減り、支えられる人が増える状況になります。この状況で今までと同じ行政運営を行う事は財政的に(お金の面で)困難であると考えられます。そこで何にお金を使い、何を削減するのかという選択を経営的視点で判断していく必要があります。(コストパフォーマンスを上げる努力は大前提です)

裏面につづく

# 『高齢化率が大田区で今後どの様に推移していくか』検証

## 第1章 大田区人口の推移と変化\_1.人口

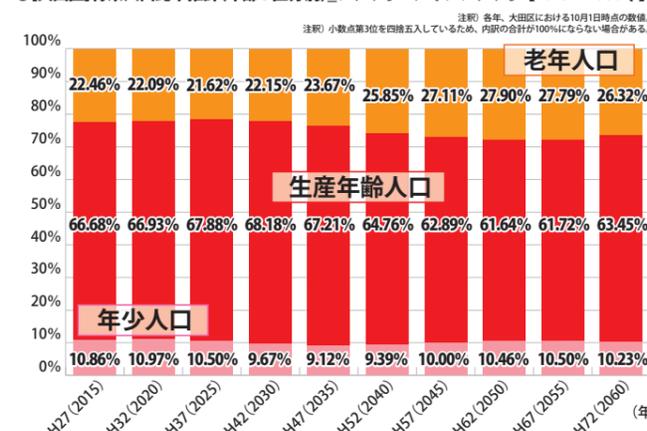
### ●[大田区]人口比率(年齢3区分別)の推移【1960～2015年】



▲今日までの大田区高齢化率の推移 1960～2015年

## 第4章 年齢別将来人口

### ●[大田区]将来人口比率推計(年齢3区分別)\_シナリオA-メインシナリオ【2015～2060年】



▲今後の大田区高齢化率推移 2015～2060年

※平成29年3月大田区人口推計参照

## 社会を支える生産年齢人口が減り、社会から支えられる高齢者が増えます

老年人口は、団塊の世代が高齢者となったことで団塊ジュニアが高齢化するまではほぼ横ばいの状況で推移し、その後上昇傾向の予測となっています。ですから、**高齢者の生活・介護の環境整備を求める区民ニーズは増加傾向**といえます。

## 次の時代を担う子どもたちを育てる環境はどうなってる？

保育関連施設の整備は進んでいるものの、1,750人以上の待機児童を生み出している状況が今日であります。

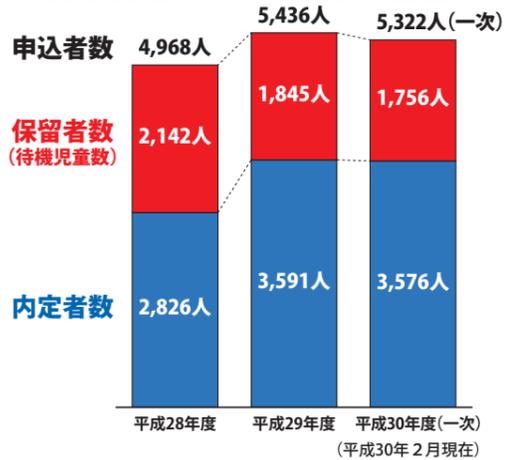
女性活躍の推進や先行き不透明な経済状況などの要因と、新築マンションの増加に伴う影響も含め、保育ニーズは増加の一途をたどっています。地方から仕事の都合などにより都内へ転入される方は益々増える事が予想されるので**子育て支援への区民ニーズも増加傾向**といえます。

また、国民健康保険事業・後期高齢者医療・介護保険への繰出し金についても増加傾向が続いている状況も見過ごす事が出来ない社会背景です。

挙げた例は一部で、行政ニーズは多岐に渡りますから、その他の諸課題も含め**扶助費については増加する要因は多くあるが、減少する要因はあまり見当たらないという状況にある**と私は考えます。人口動

態が社会に与える影響が大きい事は皆さんの周知のところですが、この課題をクリアする具体的な道筋をしっかりと示せる大田区を作っていくことが住み続けたい町をつくる上で必要不可欠です。

### 保育園の申込者数・内定者数 保留者数の3年間の推移



#### 整備の進捗(定員数)

平成27年度	556人定員数増
平成28年度	717人定員数増
平成29年度	1,200人定員数増

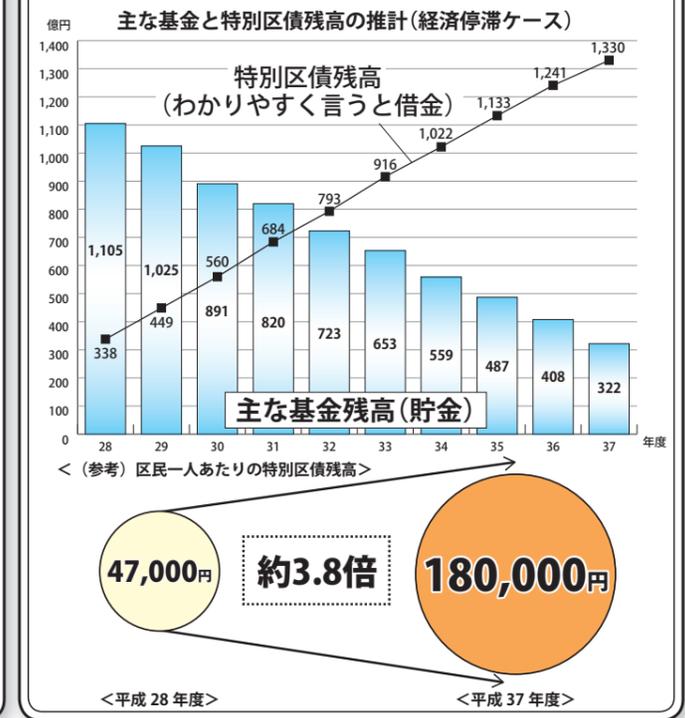
## これらの区民ニーズに応える為に必要なのは財源です

大田区の財務は今後どうなっていくのでしょうか？未来予測ではありますが想定するケースが2つあります。

### 経済状況が良い場合



### 経済状況が停滞した場合



※OTAシティマネジメントレポート参照

棒グラフの基金残高とは『貯金』、折れ線グラフの特別区債残高とは『借金』です。共通して言える事ですが、**貯金が減り借金が増える傾向**にあります。あくまで予測ではありますが、この状況をみれば多くの方が「必要な事に予算を使え」と言われると思います。今後の大田区は何に予算と時間、そして人員(職員配置)をあて、何を改めるべきかという判断が求められると考えます。**私はその判断基準は『次の世代への継続性』に置くべきだと考えております。**今使っている予算が今後の地域社会や区民生活にどの様に活かされていくのか、この説明をできる行政計画と予算執行を着実に積み上げられる大田区を目指し、区議会で質問をして参りました(上記の内容も質問し答弁の中から得た情報が含まれております)。生れ育ちが地元大田区で、**これからも大田区に住み続ける一区民として、皆さんと地域の課題を共有しこれからの大田区を作って参ります。**

## 区政に対するみなさまのご意見をおきかせ下さい!

### ゆもと良太郎 プロフィール

42歳3児の父

昭和51年5月10日	大田区大森生まれ(A型)。大森幼稚園・大森第五小・日大三中・日大三高を経て明治大学商学部貿易コース卒。大学在学中より都議会議員秘書となる
平成15年4月	大田区議会議員選挙に自由民主党公認若手26歳で初出馬、初当選(5536票)。66候補者中、新人1位
平成19年4月	大田区議会議員選挙にて2期目の当選(5419票)
平成22年6月	自由民主党離党
平成27年4月	大田区議会議員選挙において3期目の当選(5523票)。65候補者中7位、完全無所属ではただ一人の当選者。

ゆもと良太郎  
事務所

〒143-0011 東京都大田区大森本町2-31-10  
TEL.03-3765-1464 FAX.03-3765-1482  
http://www.yumoryo-otacity.jp info@yumoryo-otacity.jp